

WASEDA UNIVERSITY ALUMNI ASSOCIATION of JAPAN and TAIWAN

日台稲門会

会報 第10号



発行所：日台稲門会事務局
 神奈川県茅ヶ崎市南湖5-15-5(小野間方)
 TEL・FAX 0467(83)2611
 編集委員会
 発行人：白鳥 和夫
 編集責任者：齋藤 晃

昨年は日台稲門会創立十周年、今年には会報発刊十周年です。そこで創立以来の会員の方々に当時を語って頂きました。

台北稲門会 そして 日台稲門会 発足の頃

渡邊 義典(昭和三十八年政経卒)

今から二十年以上も前、私の一回目の台湾駐在の頃、台湾には既に校友会があったものの、駐在員は会員ではなかったため、有志が集まって「台北稲門会」を立ち上げよう、という話になりました。

当時、三井物産の台北支店長であられた嶋沢先輩に会長をお引き受けいただき、約二十人程でスタートしました。その時のメンバーには、華能營造の加藤総経理や、今や大実業家になられた萩谷さん、現在の台北稲門会会長の高橋さんの颯爽とした商社マンの姿もありました。

五年半の駐在が終わって帰国したものの、台湾恋し病が治らないでいる時に、田村さんから「関東台湾稲門会」設立発起人会の案内をもらいました。新宿の台湾料理屋で、寺田大先輩をリーダーとして会が発足しました。

その時はまだ湾生の方々がご健在で、私などは駆け出しでした。一番若いから事務局長をやれ、とのご指示で、会計事務所経営の高橋さんと二人で事務局をスタートさせました。

湾生の方々の思い出や、軍人として駐屯された終戦時の台湾など、会合の度に議論は盛り上がるものの、財政基盤の弱さに泣かされました。高橋さんにご負担いただいた額も半端ではありません。

私は幸運にも定年後、台湾に新規進出する会社に再就職し、再び台湾へ戻って来ました。

二度目の台湾では、再建された台北稲門会が校友会と連携して、活発に活動しておられるのにびっくりしました。片や、関東台湾稲門会は「日台稲門会」に改称され、大組織となられ、ご同慶の至りです。

これからも日台稲門会、台北稲門会、台湾校友会の交流の絆を固くして、日本と台湾の架け橋となれるよう、お互いに努力していきたいものです。

古参会員となりましたが…

林田 重剛(昭和四十年商卒)

日台稲門会は、昨年創立十周年を経て、今年新たなスタートを切りました。

私は関東台湾稲門会(平成十三年に日台稲門会に改称)創立以来のメンバーとなっておりますが、入会間もなく長期地方勤務となり、結果的に休眠会員のような状態が長く続いておりました。

私が当会に入会したのは当会創立発足人の一人であり、私が台湾駐在時の直属の上司でもあった故笠原雅生氏(当時副会長)の強い勧誘によるものでした。

氏は長期台湾駐在の経験もあって台湾への思い入れ深く、日台稲門会だけでなく職場でも台湾会のリーダーとして活躍しておりました。残念ながら氏は平成十三年なくなりまして。草葉の陰から当会の発展を見守ってくれているものと思います。

私は三年程前に東京に戻ったのを機に当会活動に復帰させて頂きました。

昨年十六年振りに台湾を訪れ、台湾の知己とも旧交を温めることができました。今年是中国語を勉強している娘の上達度チェックがてら家族で訪台の予定です。

台湾への思い入れある者の一人として、折りに触れもっと台湾の歴史、文化、その他諸問題への理解も深めねばと思うところが在ります。

日台稲門会創設十一年を迎えて

尾崎 穰(昭和三十年法卒)

早稲田学報に告示され「早稲田と台湾の交流の会を発足しますので参加して下さい」との呼びかけが、スタートしました。発起人会は七人の侍で開催、会則作成、校友会本部登録、会員募集、会旗作成、以上の為の資金集め、など各員動きやっとな催した創立総会は九年七月五日気温三十七度猛暑の日でした。

会報第一号も創刊、その後各地校友会との交流、特に台湾校友会於台中(明德女子中学)への初参加など多くの活動がされて来ました。

初代会長寺田氏、二代村野氏、三代白鳥氏始め多くのワセダマン達の努力で発展して来ました。「水を飲んだ時、井戸を掘った人の事を忘れてはいけません。」

ワセダマンの基本理念は、「先輩を敬い、後輩を慈しむ」という事です。

今後もワセダ大好き台湾大好き、日台交流の会として発展を祈るものです。

平成十九年二月

会員寄稿

第二の故郷竹山を思う

村野 賢哉 (昭二十一年理工卒)

『竹山』を台湾の地図で探すと、その真ん中の辺りを見ると、濁水溪という名の大河が東西に流れているのだが、その中流域の左岸に見つかるであろう。

実はここが私の生まれ故郷なのだ。僅か三歳で内地(日本)に家族ともども帰って来たので、『灣生』というのも名ばかりである。

それでもここを訪ねる度に、父が校長をしていた『竹山公学校』の辺りを徘徊すると、いまは存在しないのだが、私の生まれた官舎の跡地も見つかるし、結婚する前の母の実家のあった秋山文房具店の跡地も、教えてくれる土地の人達が元気でいてなつかしい思いに捕らわれるのである。

私の父は茨城県の土浦中学校(現土浦一高)の出身で三男坊であったので、その頃、全額給費で学べた台北師範付設の『国語学校』に行李一つを担いで入学するため、台湾に渡ったのであった。

卒業後、赴任したのが竹山だったのである。従って校長といっても名前ばかりで、校長兼小使いであった。

外地勤務恩給がついたのを契機に、在勤十年ほどで日本に帰り、某私立大学の高等師範部で学んで、中等教員の資格を取ったのであった。

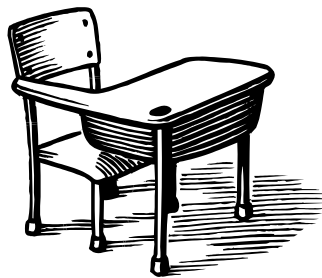
その父が八十三歳まで『駿台予備校』で

古文の講師として名声を馳せたのである。もう一昔前になってしまったが、台湾中部の大地震があり、南投県一帯が大被害を受けたのだが、早速、私は台北在住の畏友簡燦雲さんのサポートで竹山を訪ねた。

幸い、知人は一人として被害を受けていなかったので安心した。

しかし、旧公学校の跡地に立てられている国民中学校は全壊して涙が止まらなかった。いまは立派に復旧して感謝しているのである。

いま、竹山には、公学校のOBでご主人が病院を経営する陳羅素真夫人が歓迎してくれるので、まるで親戚のように訪ねているのである。(終わり)



再び台湾を訪ねて

越谷 重友(昭和三十七年法卒)

三年前に事務局長の小野間氏のお誘いで入会をさせて頂いた。同氏とは、若き頃慶大のビジネススクール時代の同期生という関係で、五年前に仲間共々台湾を訪ねたのがキッカケである。「人生に定年なし」の一方で、「仕事だけが人生ではない」との信念

のもとに、今回が三度目の台湾の旅となった。家内共々、高雄、台南、台中、台北四日間のコースを企画し、『元氣印の台湾』を訪れた。その間、欲張って名所を十五ヶ所も訪ね、今日の台湾の素顔を感じ取れた気がする。観光では、夕日に映える神秘的な「日月潭」の文武廟から眺める光景はいかにも感動的であった。高雄では、宋時代の建築様式の「孔子廟大成殿」、道教の廟「三鳳宮」、台南では開運を願って「天壇」、金色に輝く台中のシンボル別名「鼻クソ大仏」には思わず心が和む思いがした。台北では、紙面の関係で絞ると、至宝で辿る中国五千年の歴史「国立故宮博物館」、衛兵の交替儀式が感動的な「忠烈祠」、台北最古の寺院「龍山寺」、商売繁盛の武廟「行天宮」、庶民の台所「南門市場」では、台湾の人達の生活の一部を垣間見ることができた。止めは、日本の技術で完成した高さが508mで世界一、エレベーターの速さでも世界一を誇る「台北国際金融大樓(台北101)」、展望階で眺める景観は見事であった。多くの人々と会話し感じたことは、中国大陸からの本省人・外省人と言われる大量移民によって軋轢の歴史が刻まれ、その過程に日本統治時代があり、とりわけ中国本土との関係では未だ一線を画している所以を会話を通して学習した旅でもあった。しかし、宗教面では、全ゆる神仏が信じられ、一つの寺廟に道教・仏教・民間信仰の神々が混在するなど、信仰心が厚く寛大なエネルギーが溢れる人々が多いと痛感した。激動の近代史を経験した台湾の発展にエールを送りたい気持ちで、台湾を後にした。

祝 早稲田大学校友会日台稲門会
会報第10号 発刊

中華民國 台北駐日經濟文化代表處
代表 許 世 楷

東京都港区白金台5-20-2
電話03(3280)7811

台湾の桜植樹式と

お花見ツアーに参加して

栗山 威郎（昭和三十九年商卒
・横浜校友会）

平成十九年二月八日～二月十一日まで桜の植樹とお花見ツアーに参加した。台湾への花見とはいぶかしく思われる方も多いと思うが、いきさつは日本育桜会が五年前に発足し翌平成十五年二月に台北市、新竹市へ二百本の河津桜を贈呈、植樹した。台湾の李登輝之友会がこれに協力し、三年前に日本李登輝友の会が更に加わった。

昨年二月より毎年千本づつ苗木を贈り、一万本まで増やし台湾を日本の桜で華やかに満たして、台湾の人々に花見を楽しんでもらうと同時に日台の交流を一層進めようとするものである。

日本育桜会の園田天光会長は「日本の桜を台湾に嫁にだす」と言われ、李登輝前総統は「台湾で育った桜は台湾の桜になる」と答えたそうである。

私は日本李登輝友の会神奈川支部の会員として、民間交流の一助になればと参加した。

初日は午後便で成田を出発し、桃園国際空港到着後バス二台に分乗し台中へ移動宿泊のみ。

参加者は育桜会より二十一名、李登輝友の会より二十八名のおよそ五十名である。

二月九日前日よりホテルに宿泊の黄崑虎台湾李登輝之友会総会長、ご夫妻もバスに乗車され、南投県名間に向かった。到着後昨年贈呈した苗木に参加者名を記した赤いリボンを各自が気に入った苗木に結びつけ無

事に育っているのを確認して喜んだ。

ちなみに育たなかったのはわずか一本だけとのことであり、大切に扱われていることがよくわかった。また花は数本に一片程度ではあったが。

贈呈の桜は日本河津桜であり、これが育つには最低気温十二℃が六十日必要との事であり、ソメイヨシノの場合は最低気温五℃が同様に必要なことである。

続いて同県の鹿谷郷小半天へ向かい、同地は台湾ウーロン茶の最高級品でも知られている地とのことで、茶、花、鳥、竹林で知られた高地で、風光明媚な地域である。

歓迎の式典には県知事を始めとして役所幹部、村長以下地元の方々多数が参加され、続いて公園にでて植樹が行われた。この地域では濃い赤紫の緋寒桜が咲いているのが目についた。

植樹後は地元の小学生在が名産の竹を利用した様々な踊りを始めとした珍しい見世物を、一生懸命に演じてくれ、我々を喜ばせた。

午後は一路台南の烏山頭ダムに向かい、嘉南大圳を一大穀倉地帯に変え台湾の人々が最も親しみを持っている一人である八田與一技師の苦心談を聞き、ダム湖を遊覧の後八田記念館、與一の銅像を見学した。

夕刻後壁にある黄崑虎先生の大邸宅、前面に大きな池があり、前庭、後庭を配した四合院造りの立派な家に招かれ、中庭において豪華な晚餐会のご馳走を頂き一同旅の疲れを癒された。

宿泊は台南のリゾート地にある江南渡假飯店で、部屋の広さはセミダブルのベッドが四つもあるびっくりするものであった。

三日目の二月十日は台南の善化工業区での植樹式である。植樹する公園のそばを開業したばかりの新幹線が優雅な姿で走っていた。

式典には台南県知事を始め役所有力者、日本交流協会所長、日本の進出企業経営幹部等々が出席された。この地は液晶関係が七〇%を占める最新のサイエンスパークである。

式の中で台湾財界の第一人者である許文龍先生は自らマンドリンを手に、我々を労う意味で、「さくら」、「春がきた」、「浜辺の歌」、「夏の思い出」、「夕焼け小焼け」、「故郷」など日本の名曲を演奏をしてください、一同涙を浮かべながら大きな声で合唱し感動をともにした。

植樹は来賓、参加者手分けして行われ、数年後には新幹線の車窓から満開の桜が眺められることを期待した。

帰路は台南新幹線駅に向かい開業間もない新幹線で終着駅までの旅を楽しんだ。

台北で今夜は国賓大飯店における晩餐会である。

台湾李登輝之友会の総会長黄崑虎先生を始めとして羅福全、黄昭堂、蔡焜燦先生等々の我々には馴染みの深い皆さん方が出席され、日本の台湾大使も出席された。

唯一残念であったのは李登輝前総統が自ら主催している群策会との会合とぶつかってしまい欠席されたことであったが、楽しい懇親の一夜を大いに楽しんだ。

最終日十一日は新竹市に向かい、新竹李登輝之友会を訪問、新竹駅見学、新竹公園で日本式花見の予定であったが、悔しいことに前夜から胃腸をやられ参加することが

慶祝日台稻門会第10号会報発刊

台北 李登輝友の会

会長 蔡焜燦

台湾の自由と民主主義のために、頑張っています。

出来なかった。参加した人の話では新竹動物園前の桜が満開で素晴らしかったそうである。

新竹市も桜で町を満たそうと市長以下積極的に取り組んでいるようである。

午後便で帰国となったが満開の桜を愛でることが出来なかったのは真に残念であった。しかし数年後に各地で満開に咲き誇る桜が見られるようになると、台湾と日本との民間交流の輪が一段と広がるのではないかと楽しみにしている。

台湾では桜の見頃は一ヶ月位あるようである。一月頃から咲いているようである。

最後に我が横浜グループでは台湾人の桐山利恵子さんが参加したが、彼女は現在横浜中華街関帝廟通りで「富筵」という店を経営しています。中華街にお出かけの際は是非利用してあげてください。

台北のスコール

細井 政明(昭五十一法卒)

台北に駐在している頃、スコールというものを経験した。それまでの晴天が一気に黒雲に覆われ、雷鳴と共に土砂降りになる。だが、二〜三時間で綺麗に、雨などど吹く風と、上がってしまうのだ。午後にはスコールがあつても、退社時には晴れ上がる事が多く、我々内勤者には助かる現象だった。しかし時には夜のスコールもある。その晩は台北稲門会の宴会だった。駐在して日も浅く、会へも参加したばかり。初対面の方も多かったのだが、親切にしていたとき、すっかり打ち解けて行った。やはり母校の同窓生は有難い。紹興酒で機嫌が良くなつ

た一同、カラオケにでも繰り出そうと店の出口に来た。すると土砂降りの雨が道路を叩きつけている。軒伝いに歩いてコンビニで傘を買う事とした。傘売り場で先輩の一人が、ピンクや花柄の傘にして眺めている。「どうしたんですか。」と言うと

「俺の三年の駐在経験では、この雨は十時前には上がるね。つまりスナックを出る時に傘は要らなくなる。そしたら、店の女の子達に、『この傘は使ってくれ』と置いていくのさ。そうすれば、『ワー太っ腹、稲門会ステキー!』など言ってもらえ、モチ度がグーンとアップするという訳だ。しかしそんな時に黒や紺の男物の傘なら小姐(シヤオジエ)だって喜ばないだろう。」

成程、三年の駐在経験は伊達じゃないなとみんなで感心し、私も花柄の傘を買って二次会へ向かった。十二時近くなり、明日の勤めもあるからとスナックのドアを開けると、土砂降り雨が降り続いてた。翌朝出掛けようとする「どうしたの。ずいぶん派手な傘買ったのね。」と女房に言われ「フーン、その、男物の傘が売り切れだったものだから。じゃあ行って来るわ。」先輩の助言は、時に夫婦の間に不必要な秘密をもたらした。しかし、台北稲門会へ参加した事で得られた、台北での充実し楽しかった時間に比べれば、何ほどの事があるろう。皆様お元気にしておられるのだろうか。越後の地から、日台稲門会会員諸氏のご健勝をお祈りする次第です。

「11」の海洋島国

大山 高明(昭和四十三年卒)

台湾は日本の九州ほどの大きさで、海に囲まれ、山脈を背骨として降雨に恵まれた島国だ。玉山山脈の玉山は三千九百五十二メートルと富士山よりも高いが、衛星写真を見ると台湾は正に緑の島そのものである。日本も同じ山脈を背にした島国で、その海岸線の総延長は三万四千キロに及び世界で六番目に位置する。更に二百海里の経済水域を日本の領域と考えればその面積は現国土の約十二倍に達し、陸と海を合算するとその広さは世界の十二番目に位置するという事実を知る人は少ない。陸地面積だけを見れば世界の六十番目に位置する国なのに、である。

日本と台湾には縄文時代よりインドネシアやマレー半島から海洋民族が船で渡来してきたとも言われ、その基底文化をどこかに共有している。また近代においては互換的な経済関係を維持しながら極めて友好的に両島国は発展を遂げてきた。台湾の存在は現代におけるアジア及び世界の国際関係に相当複雑な問題を投げかけている。が、地理的にも極めて近い二つの両海洋島国は良き隣人として、また戦略的見地からもその関係を失うわけにはゆかないであろう。以上、誠に微力な思い入れのみで愚生も当会会員になっているのだが、付け加えれば、白鳥和夫現会長の「山椒は小粒でピリリと辛い」という切れのよさとその見識の深さ、更に人情の細やかさの魅力に触れたくて、会合に出席しては酒を楽しんでる。

日本海事新聞社社長 (日台稲門会会員) ・大山高明著

海洋国家日本のとるべき針路をあらゆる角度から網羅検証!

| | | |
|---------------------|-------------------|-------------------|
| 1章 日本人は古来、海の民だった | 5章 港開の変革が始まる | 9章 海の守りは大丈夫か |
| 2章 海洋国家としての歴史をかえりみる | 6章 漁業の将来を切り拓くカギ | 10章 今日でも海防は控えている |
| 3章 海産物が日本を支えている | 7章 海洋の資源は無尽蔵だ | 11章 海洋戦艦なき日本を憂慮する |
| 4章 世界造船王国への再チャレンジ | 8章 海洋の環境破壊は地球を滅ぼす | 12章 海洋教育が日本人を変える |

産経新聞出版 定価1470円(税込)
ご注文はお近くの書店または <http://www.sankei-books.co.jp> から

台湾の思い出

(人と人の距離感、縁)
寺田 修 (昭和六十三年商卒)

商学部昭和六十三年卒の寺田と申します。台湾には、一九九八年三月から二〇〇三年十二月まで、六年弱居りました。早いもので、日本に帰国して既に三年が経過しました。

この度、日台稲門会の会報への寄稿の機会を頂戴致しましたので、台湾に関わる思い出を、寄せさせていただきます。

思い返すと、台湾在任中にも十分感じていたものの、日本に帰国してから、より強く感じるのが、台湾時代に味わった「人と人の距離感の近さ、即ち親密感です。」

決して日本での人間関係が疎遠だと総括する訳ではないのですが、台湾の方々が私及び家族に対して向けて頂いた暖かさを思わずにはいられません。

1. 人情味

今や日本では忘れ去られつつある言葉かもしれませんが、私の台湾での生活では、切り離せない言葉です。困っていれば、誰とは言わず、手を差し伸べてくれることが多々ありました。赴任直後の、所謂「人生地不熟」の状況の際、交通機関の利用、買い物、食事等の日常生活の各場面、多くの台湾の方が、見ず知らずの日本人である私に対して、惜しみなく手を貸してくれました。

特に、二女を、台湾で出産した際には(余天母 振興医院、同じマンションに住んでいる台湾人の方が、病院に付き添いで行っ

て頂いたり、ホームヘルパーを手配して頂いたり、何から何までお世話になりました。台湾では、乳幼児を抱いて、バス、地下鉄に乗ると、必ずといって良いほど席を譲ってくれました。ところが、日本に帰国して、乳幼児を抱いて電車に乗っても、誰一人席を譲って頂ける人はいませんでした(誇張ではなく、事実です)。日本では、電車等でのそのような状況があっても席を譲らないのが当たり前だったんだという事実を認識し、正直驚きました。同時に、これまでも日本にいる際の自分がどうであったか、と大いに反省致しました。

2. 人なつこさ(人間関係の親密さ)

上記の人情味とも裏腹かもしれませんが、台湾の方には、いつも人なつこく、フランクに接して頂きました。例えば、自強号に乗って旅をしていけば、近くの方が話しかけて来ますし、タクシーに乗れば必ず話しかけてきます。私もおしゃべりであることもあり、いつも他愛ない話に付き合っていました。

ある時、オフィスの近くの食堂で会社の同僚と昼食をとっていたら、近くのテーブルの全く知らない若い女性が突然やってきて、私の食べている料理がおいしそうだから少し食べさせて欲しいとの要請がありました。私が要請に応じて、少し食べさせて差し上げると、ご本人は納得したようで、自分も同じ料理を注文していました(注文前に味見がしたかったようです)。

また、長女を、地元の幼稚園に通わせていたのですが(日本人は唯一、一人、偶々

自宅が近かったせいもあり、ハローウィーンや春節の際には、幼稚園の先生がクラスの子童全員をつれて(二十人以上)、私の自宅にやってくるなど、日本ではあまり考えられないようなことがありましたが、今では良い思い出です。

その幼稚園では、よく土曜日に、保護者会があり、先生と保護者が教育問題を熱心に討論しており、私にも遠慮なく意見を求めてきました(オール中国語の世界です)。

3. 最後に

以上取りとめもない話となってしまうました。

思い返すと、私が台湾で稲門会に参加させて頂くようになったのも、台湾での親密な人間関係という土壌がきっかけだったのかもしれないと思っています。

台湾に赴任する前には、日本では早稲田大学のOB会には全くといって良いほど、参加していませんでした(校友会費をお支払いしているのみでした)。

台湾の駐在、台北稲門会への加入が基で、このように日台稲門会の皆様とも縁ができて、いわば台湾との関わりのお陰で、早稲田大学の先輩方々との縁が深まったのだと思っております。

今後、私と台湾との関係、また、日本と台湾との関係が、台湾での人間関係の如く、密接な関係であることを願っています。

以上



日本と台湾の懸け橋を目指す

石川台湾問題研究所

代表 石川 公弘 (34年商研)

〒242-0029 大和市上草柳6-12-13

Tel 046-261-1838 Fax 046-208-2012

Yahoo! ブログ - 台湾春秋 発信中

<http://blogs.yahoo.co.jp/kim123hiro/MYBLOG/yblog.html>

日本李登輝友の会神奈川県支部長

高座日台交流の会事務局長

早大日台稲門会幹事長

変わる台湾、変わらぬ台湾

丸山弘子（大学院アジア太平洋
研究科修了）

台湾と言えば、美味しい台湾料理や中華料理を味わうのが最大の楽しみであるが、昨年秋に訪台した際に、ナイフとフォークでいただく西洋料理のレストランに初めてご招待される機会があった。中正紀念堂近くにある店内に入ると、ワインケースの木箱が整然と並べられ、さながら南欧のキッチン

のようであった。数名の欧米人の先客がワイングラスを片手に中国語で店主と会話を交わしている情景を見て、ここが欧米でなく、台湾であることを実感した。それにしても、美しい中国語を話す金髪のお紳士であった。店主は台湾のワイン博士と言われほどのワイン通で、実にフルーティーなワインを選択してくれた。今までに経験したことのない西洋化した台湾を垣間見たが、食事の最後に「担仔麵」が出され、嬉しいやら、ホッとした。フレンチ・フォルモサはなかなかお勧めである。

平成19年4月1日(2007年)

日台稲門会会報

食後は、龍山寺で民進党の大規模な選挙集会が予定されていたので、捷運に乗って見物に行くことにした。ペートーベンの「第九」の大音量と共に、火花が舞い上がる中、遊主席が登場して熱気が充満する中、なんと大きな日章旗を掲げている男性の姿が目に入った。どうして民衆の集まるカオスの中で、日の丸をなびかせているのか。民進党の選挙集会と何の関係があるのか。集会の参加者はほとんど「台湾」と書かれた小さな旗をなびかせている。ミスマッチな光

景であるにもかかわらず、だれも日の丸を降ろそうとしないし、文句を言う人もいない。台湾人の大らかさであろうか。日本の学校では、卒業式に日の丸を引き摺り降ろす教師がいるそうだが、ここでは安全なようだ。日の丸の男性にその訳を尋ねたかったが、あまりの人の多さに動きがとれず、断念した。集会が解散すると、人々はそれぞればらばらに帰路に着いた。大型バスで乗り込む組織化した国民党と民進党の支持者の違いであろう。

翌日、客家の結婚式に招待され大溪に向った。時間に余裕があったので、近くの湖の遊覧船に乗ったところ、船長が湖の真ん中でエンジンを止め、ダムの上を語り始めた。先ず、「今日は日本人のお客さんが見えなのに、こんな汚い格好で申し訳なく思う」と話され、吃驚した。どうやら船長は日本時代に教育を受けたようなので、下船の時に握手をして日本語で会話を楽しんだ。いつも変わらぬ台湾での友情のひとつマであった。

法律系の大学院に通う優秀な新郎と美しい新婦の門出に、三百人ぐらいの参列者がいた。台湾の結婚式にはドレスコードなるものがなく、普段着のような格好の人々も多かった。「愛染かつら」や「ソーラン節」を日本語で歌う台湾のおじさまの熱唱に圧倒され、日本の結婚式に参列している錯覚を覚えたが、人々がゆったりと楽しみ、服装に拘らない姿を見て、やはり台湾らしさを感じた。

御祝 早稲田大学校友会日台稲門会

会報第10号 発刊

台湾

萬國法律事務所

FORMOSA TRANSNATIONAL

Attorney at Law

創所暨 主持律師 陳 傳 岳

Founder & Senior Partner John C. Chen

台湾台北市 106 仁愛路三段 136 号 15 階

15F, Lotus Bldg., 136 Jen Ai Rd., Sec. 3, Taipei 106, Taiwan

Tel: 886-2-2708-9883 Fax: 886-2-2755-6486

E-mail: john.chen@taiwanlaw.com

Website: www.taiwanlaw.com

特集

鄭氏台湾の興亡

エッセイスト 木村 滋
(昭和二十七年法卒)

一六六一年十二月、国姓爺・鄭成功の率いる二万五千の軍団の攻撃により、台南ゼーランダー城が陥落、三十八年間のオランダ東印度会社の台湾支配に終止符が打たれたことは会報七号(平成十六年)で述べた。

報 最新兵器で白人を打ち破ったことが画期的であるばかりでなく、この時の和平条約が中国(人)と外国との間に結ばれた国際条約として史上初のものであることは記憶されていい。

稲 条約は敗戦国オランダに寛大で、必要物資の積み出し、高官・幹部の財産の持ち出し、その為のはしげ船の提供、オランダ軍の武装撤収等が列記されている。

鄭成功は何故戦利品に貪欲でなかったか。一つは畧々一年の包圍攻城で兵糧が尽きていたこと、更に本土の根拠地廈門、金門に清軍圧迫が一段と強まって来たことから講和を急いだこと等が考えられる。

オランダ追放後、成功は赤嵌(プロフィシア町)を王都・承天府と定め、自らは紅毛城(ゼーランダー城、別名安平城を宮殿として、一六六二年五月、風邪をこじらせて死去するまで住んだ。後継者は二十一才の長男鄭経で、鄭氏台湾二十三年間の内二十年間、清・鄭戦争の遂行、東南アジアとの貿易振興、内治ではオランダ統治以前

から先住の漢族と高山族の巡撫、屯田を主とした拓殖を進めて米、砂糖を増産する等凡庸な二代目ではない。

ここでエピソードとして鹿、牛について触れたい。明治二十八年後、渡島した日本人は水田に遊び、犁を引く肥大して鈍重な水牛に、此処は東南アジアかと思つたに違いない。オランダ、ゼーランダー城長官コイエットは著書に、夥しく生息する野生の鹿と牛について記述している。抜け目ないオランダ人は鹿を捕らえて皮を日本に、肉を支那本土へ売って、砂糖に並ぶ利益を得ていた。

十七世紀台湾の山野に群棲していた牛は黄牛で水牛ではない。農民は野生の子牛を捕らえ去勢して育て農耕、運搬、砂糖キビの糖汁しぼりの動力用に使つた。黄牛はオランダ宣教師がインドから一二頭輸入して繁殖したとの説があるが、三十八年間に山野に群棲する程増殖するものかの疑問があり、台湾固有種だろうとなつていいる。水牛は清時代後福建あたりから導入されたものである。

成功は統治開始に当り、武装大部隊を引き連れ台南、嘉義、雲林、彰化各県の原住民部落を巡行して心理的威圧を加えると同時に、部落支配層に衣服、帽子、靴、嗜好品を与えて懐柔を試みた。

成功は南明桂王から「延平王」の称号を受けていたが、南明滅亡後は専ら「開台王」と呼ばれる。但し自らは即位、元号を建てないまま数ヶ月の治政で憂愁の内に世を去つた。

憂愁の原因は何か。その第一は父鄭芝龍の刑死である。芝龍は成功と共に抗清復明に奔走していたが、明の時代は去つたとして清の招撫に応じ投降、相当の好遇を期待したものが案に相違して北京に護送され斬殺された。成功の母、日本武士田川氏の女は夫の行動を恥じ自ら命を断つた。

原因の二は後継者鄭経の背徳行為である。経は既に正室を持つていたが、弟の乳母陳氏と密通、一子を設けた。成功は怒り息子を誅殺しようとして父子間に埋めようのない亀裂を生じさせた。その三は敗者オランダや原住民に寛大だ

つた成功は創業以来の身内の部将達に過酷なまでに厳格で、離反者が相次ぎ、その咎は二代経、三代克塽時代に噴出することになる。その典型が施琅である。元成功の部将施琅は一六五一年、兵権移譲問題で離反し清についたため成功は激怒し父大宣と弟施頭を殺害した。施琅はこれを恨み反鄭攻撃の急先鋒となり、一六六三年、清軍を率い二度に亘つて澎湖を攻撃したが、二度共暴風雨に遭つて失敗している。

現在、台南市北西にある鄭子寮の地に別荘を造り、日夜逸楽に耽つた二代目台湾王鄭経は一六八〇年、此の地で没した。

三代目鄭克塽王の二年間は政権内部抗争に明け暮れ、著しく国力を損じた。鄭氏台湾に引導をわたしたのは前出の施琅である。清国水師提督となつた施琅は澎湖島沖の大海戦で鄭軍を破り、占領軍総司令官としてタイオワン上陸、克塽王の降伏を受け入れ、父・弟の恨みを晴らした。(定参考文獻 フレデリック・コイエット著 閑却されたラオルモサ、林田芳雄著「鄭氏台湾史」)

Wish to see you in Taiwan




台湾観光協会
http://taiwan.net.tw/

日台稲門会 十年の歩み

平成八年(一九九六)

十一月九日 寺田勉氏の発案により第一期「関東台湾稲門会」設立の発起人会を開催、寺田勉氏会長に就任、会則を制定(平成九年一月一日より施行)
①会員相互の親睦を図る ②台湾(含む留学生)との交流、親善を深める ③母校の発展に寄与する
※台湾生まれの寺田勉氏(昭和十二年文卒)が一九九五年六月、台湾に縁のある校友を結集して稲門会を設立したと思ひ立ち、一年がかりで同士を募り、当初は発起人十三名のメンバーでスタートした。

平成九年(一九九七)

一月一日 「関東台湾稲門会」発足 寺田勉会長
七月五日 創立総会開催 リーガロイヤル東京(早稲田)
十月一日 会報創刊号発行
十一月八日 早稲田大学台湾校友会総会(台中)

平成十年(一九九八)

三月二十七日 第二回年次総会開催
ダイヤモンドホテル(半蔵門)
六月二十七日 梅雨払い 花紋(赤坂)
七月三十日 会報第 号「暑中御見舞い号」発行
十一月七日 台湾校友会総会 国賓大飯店(台北)
十二月十一日 忘年会 源兵衛(早稲田)

平成十一年(一九九九)

三月二十六日 第三回定期総会 大隈会館 同時に高玉樹・台湾校友会会長の早稲田大学名誉博士号授位祝賀会
六月五日 梅雨払い グリーンパーク(上野)
六月十五日 寺田会長が病氣のため村野賢哉副会長が会長代行に就任、幹事会で推挙
七月三十日 会報第三号「暑中御見舞い号」発行
八月七日 納涼の集い プレスセンタービル日本記者クラブ小会議室
卓話:『台湾経済の変遷』 易錦銓・中国信託商業銀行東京事務所代表
九月二十一日 午前一時五十五分 台湾大地震発生
十一月八日 有志による台湾大地震に対する義捐金寄付活動を行った
十二月三日 忘年会 日本記者クラブ小会議室
十二月十二日 台湾校友会総会 国賓大飯店(高雄)

平成十二年(二〇〇〇)

四月十五日 第四回定期総会 プレスセンタービル日本記者クラブ
①第一代会長に村野賢哉氏を選任、名誉会長に寺田勉氏就任 ②会則一部改定 第四条「役員を選出」、第八条「役員会」、第十二条「入会金・年会費」 ③役員改選
講演会:『総統選挙と最近の台湾事情について』 張茂森・自由時報東京支局長
第一回日台稲門交流の集い レストラン・アラスカ
七月一日 懇親会(暑気払い) プレス

平成十三年(二〇〇一)

センタービル九階会議室
卓話:『新総統選出後の台湾』 易錦銓・常任幹事(中国信託商銀東京代表)
十一月一日 会報第四号「立冬号」発行
十二月十六日 台湾校友会総会 福華大飯店(台北)
十二月二十六日 懇談会(忘年会) プレスセンタービル九階会議室
卓話:『私と台湾』 近藤良三郎・常任幹事

平成十四年(二〇〇二)

四月七日 第五回定期総会 プレスセンタービル日本記者クラブ
①会の名称を「日台稲門会」と改称した ②会則一部改定
講演会:羅福全・台北駐日経済文化代表処代表、高玉樹・台湾校友会名誉会長
第二回日台稲門交流の集い レストラン・アラスカ
六月十六日 土井巧氏卒寿祝い
九月一日 ニュースレター第一号発行
九月一日 懇親会(暑気払い) 中国采館(歌舞伎町)
十二月一日 ニュースレター第二号発行
十二月十五日 台湾校友会総会 全国大飯店(台中)
十二月二十六日 懇親会(忘年会) プレスセンタービル会議室
卓話 黄文雄・常任幹事

平成十五年(二〇〇三)

三月三十一日 会報第五号発行
四月十三日 第六回定期総会 プレス

平成十六年(二〇〇四)

センタービル日本記者クラブ
全役員留任、但し任期は一年限りとする
講演会:『WTO加盟後の台湾経済』 易錦銓・中国信託商銀東京代表(商学博士、会員)
第三回日台稲門交流の集い レストラン・アラスカ
八月一日 ニュースレター第三号発行
八月二十八日 懇親会(暑気払い) プレスセンタービル九階会議室
卓話:『台湾の民主化と私』 周英明・理科大学教授
十一月九日 台湾校友会総会 国賓大飯店(台北)
十一月二十九日 ニュースレター第四号発行
十二月二十六日 年末懇親会(忘年会) 台湾海鮮(銀座)

平成十五年(二〇〇三)

四月一日 会報第六号発行
四月八日 第七回定期総会 プレスセンタービル日本記者クラブ
①第三代会長に白鳥和夫氏を選任、名誉会長に村野賢哉氏就任 ②新役員十七名を承認 ③会則一部改定
第三条「会員・会友資格」、第四条「役員を選出」、第八条「役員会」、第九条「総会」、第十二条「年会費」、第十四条「名誉会長・顧問」
※当年度より年会費値上げ 三千元(旧) ↓ 五千元(新)
講演会:『日台関係の現状と問題点』 羅福全・台北駐日経済文化代表処代表
第四回日台稲門交流の集い レストラン・アラスカ
四月十六日 辜振甫・總統府資政(台湾)

工商協進会名誉会長 早稲田大学名
 譽博士學位贈呈式
 八月一日 ニュースレター第五号発行
 八月三十日 夏季懇親会(暑氣払い)
 大隈会館
 十月一日 「早稲田大学台湾研究所」開
 設(所長 西川潤・政治経済学部教授、
 白鳥会長運営委員に就任)

十月二十日 「台湾高座会留日六十周年
 歓迎大会」(実行委員長石川公弘氏)
 座間市民会館・磯子プリンスホテル
 十二月十三日 台湾校友会(社団法人日
 本早稲田大学台湾校友会)総会 圓山
 大飯店(台北)

十二月二十六日 年末懇親会 株(東中
 野)
 十二月三十一日 ラジオ短波放送にて
 羅福全・代表処代表と白鳥会長対談
 近藤良三郎幹事会旗を寄贈

平成十六年(二〇〇四)

一月十日 「NHKのど自慢」台湾開催
 を要請する署名運動に協力、二千名の
 署名取得
 四月一日 会報第七号発行 会員・会友
 の名簿を作成・配布

四月二十四日 第八回定期総会 プレ
 センタービル日本記者クラブ
 親睦会関係費用を当年度より予算
 書に計上

講演会『早稲田大学の目指す台湾研究
 について』 西川潤・早稲田大学台
 湾研究所所長(政治経済学部教授)
 第五回「日台稲門交流の集い」 レス
 トラン・アラスカ

早稲田大学創立百二十五周年記念事
 業への寄付実施 金十万円也(第一
 回)

五月 台北駐日経済文化代表処代表交

代 許世楷氏(新) 羅福全氏(旧)
 七月一日 ニュースレター第六号発行
 七月二十八日 懇親会(暑氣払い・羽原
 幹事送別会) 土風炉(銀座)
 十一月十六日 「辜振甫記念アトリユー
 ム」披露式
 十一月二十日 台湾校友会総会 国賓
 大飯店(高雄)
 十二月二十日 ニュースレター第七号
 発行

平成十七年(二〇〇五)

一月三日 辜振甫総統府資政 逝去
 四月一日 会報第八号発行
 四月九日 第四回早稲田大学台湾研究
 所運営委員会

四月九日 第九回定期総会 プレッセ
 ンタービル日本記者クラブ
 全役員十三名再任、新任役員二名
 講演会『台湾の当面する政治課題につ
 いて』 許世楷・台北駐日経済文化
 代表処代表

第六回日台稲門交流の集い レスト
 ラン・アラスカ
 早稲田大学創立百二十五周年記念事
 業への寄付実施 金十万円也(第二
 回)

四月二十日 台湾研究所主催講演会『両
 岸関係と台湾の大陸政策』 吳劍ヘン・
 行政院大陸委員会主任委員 西早稲
 田キャンパス十四号館四〇三教室
 六月十五日 高玉樹・台湾校友会名誉会
 長 逝去(享年九十二)

六月二十四日 講演会及び「台湾人シェ
 フの料理を楽しむ会」 羽衣(銀座)
 講演会『日本人三十二万人の台湾から
 の引揚げ―開始から終了まで』 河
 原功・日本台湾学会理事

七月十一日 故高玉樹・台湾校友会名誉

会長告別式(台北)
 七月三十一日 会員・会友の名簿を改
 定・配布
 八月一日 ニュースレター第八号発行
 八月三十一日 講演会及び暑氣払い
 金美齡事務所内日台交流サロン
 講演会『最近の台湾観光事情』 江明
 清・台湾観光協会所長
 九月二十四日 「台湾五十年代白色テロ
 受難者の話を聞く会」 井深記念ホー
 ル
 十月七日 「台北市立国楽団日本公演」
 新宿文化センター
 十月二十八日 第五回早稲田大学台湾
 研究所運営委員会 国賓大飯店(台
 北)

十月二十九日 「日本における台湾研
 究」学術会議 国家図書館国際会議場
 (台北)
 十月三十日 台北稲門会との懇親会
 台南館(台北)

十一月二十六日 台湾校友会総会 国
 賓大飯店(台北)
 十二月二十日 ニュースレター第九号
 発行

平成十八年(二〇〇六)

一月二十五日 講演会及び新年会 日
 本橋稲ぎく
 講演会『伝統の地から近代の中継地へ
 』早稲田での巡礼』 紀旭峰・アジ
 ア太平洋研究所博士課程

四月一日 会報第九号発行
 四月二十一日 第六回早稲田大学台湾
 研究所運営委員会
 四月二十二日 第十回定期総会 プレ
 センタービル日本記者クラブ
 当会は本年十周年を迎えた

講演会『野球部の役割』 野村徹・早

大野球部前監督(昭和三十六年卒)
 第七回日台稲門交流の集い レスト
 ラン・アラスカ
 早稲田大学創立百二十五周年記念事
 業への寄付実施 金十万円也(第三
 回)
 六月三日 台湾早慶ゴルフコンペ参加
 台湾ゴルフクラブ(老淡水)
 八月二十八日 講演会及び暑氣払い
 大隈会館の三〇一・三〇二号室
 講演会『台湾における妾の法的地位』
 林秀雄・台湾国立政治大学法律系教
 授

九月一日 ニュースレター第十号発行
 十一月二十五日 台湾校友会総会 圓
 山大飯店(台北) 十樓 四川料理「松
 柏廳」
 十二月二十日 ニュースレター第十一
 号発行

平成十九年(二〇〇七)

二月十六日 講演会及び新年会 大隈
 記念タワー(西早稲田キャンパス二十
 六号館)
 講演会『台湾の時事問題』 佐々木理
 臣・東京中日新聞本社外信部編集委
 員(校友)

四月一日 会報第十号発行
 四月二十一日 第十一回定期総会 大
 隈会館三階
 講演会 許千恵氏
 第八回日台交流の集い 大隈会館二
 階

早稲田大学創立百二十五周年記念事
 業への寄付実施 金十万円也(第四
 回)

中国語の練習方法

北村 友雄 (昭和四十四年法卒)

初めて赴任した南港タイヤでは本社社員は約百人いた。二人の通訳専任の秘書をはじめ程度の差はあるが、各部署に何とか日本語ができる人がいた。

ただ私が責任者として行った新車部には、人事異動で日本留学の人が他の部署に移動し日本語ができるのは、と言っても非常に怪しい日本語なのだけど、T経理(部長)のみであった。

総務担当の年配の台湾の人が、日本語がわかる台湾の女性を採用し、アシスタントの仕事させましょうか、と言ってきたが私は即座に断った。

中国語を何とか身につけようと台湾に赴任した私はここでイージーゴーイングをするわけにはいかなかったのだ。

それで一年くらいは、経営会議に出ても、四と十の発音を部下から聞き間違えて報告したり、過去と未来を逆に報告、発表した散々な目に会い、大恥をかくことたびたびであった。

意地の悪い日本人の先輩は上げ足を取って、「いくら頑張っても仕事に使える中国語はできないのだから、白旗をあげて通訳を使え」とみんなの前で言うのである。

でも台湾人は私の中国語練習に協力してくれたのである。

二、三人の女性は、私の席の前を通るとき簡単な中国語で質問してくれる、はじめはわかりにくかったが、何回も聞けばわかるようになる。

たとえば「今朝、何を食べましたか」とか少しふざけて「きのう何回大便をしましたか」というのもあったりしたが、私の為に質問を用意して私の前を通ってくれる暖かい心に基づいぶん勇気づけられたのと、台湾の人のやさしさが胸にしみたのである。また当時は土曜日が休みでなく午前中のみ出勤であった。午後会社で台湾の国語の本についていた宿題の答案をいつもしていた。

そうすると若い会社の女性が二、三人私の机にやってきて、添削をしてくれるのである。自分たちが使った教科書と内容が半分は同じだ、とか思い出を話しながら。

彼女たちは親切に正解を教えてくださいながら、私自身が書いたオリジナルの解答も消さずに、彼女たちの正解は赤色で書くようにした、そうでないと中国語の先生が私の実力を誤解するからである。

中国語を先生について習い始めると同時に会社の若い人を中心に、私の日本語教室を開いた。はじめは十人くらいの生徒であった。週一回九十分のペースである。

教科書は日本人の小学一年生の国語の教科書である。部数不足はコピーで補った。

しかし私の授業が面白くないのか、一ヶ月、三ヶ月、半年と生徒はどんどん減ってゆき一年たったら一人になっていた。私の部の呉さんである。二十六歳の青年である。

その後この日本語教室は私が帰国するまで四年以上続いた。結果として彼は日本の国語の教科書の三年生、上下を終えたのである。

日本語を教え始めてから三年たったころで、日本の横浜ゴムに一人出張させた。

目的は直需部、名古屋直需に行き予算の組み方、その追跡方法等を学んでくることであったが、見事にその目的を果たし新車部の改革につなげてくれたのである。

彼の勉強方法は、私は日本語から中国語への辞書を使い、彼は中国語から日本語への辞書を使って、私が中国語に訳した内容を二人で討議しながら進めた。

この方法は初めからしたのではなく、自然にたどり着いたお互いの為になる方法であり、私にとっては中国語のニュアンスを感じ取るのに、大いに役立った。

呉さんにとっては、日本語会話だけでなく、読むこと、書くことも十分な実力がついた。

二回目の台湾生活のとき台北科技大学で日曜日に日本語を教えることになるのも協議で日本語教室を開いたのも、この呉さんとの日本語、中国語の表現に関する熱心な討論があったからである。

私生活での中国語学習方法はどうかであったか、一言で言うと、ゲリラ的方法と言える。求める心が強いから自然に生まれてきた方法であると思う。

日曜日は中正記念堂、故宮博物院公園、孫文記念館等に紙袋にノートと鉛筆を入れて行き四、五人できている女子高校生のグループに近づき、片言の中国語で話しかける。

台湾人は特に外国人には、サービスピ精神が旺盛なので、変な日本のおじさんと、女子高校生グループの会話は始まる。

こういう場所はおのぼりさんグループも多いし、台北県から来ている場合も多い。二三言は用意し練習した言葉でつなが

慶祝 日台稲門会第10号会報発刊

電線の最高接続法
“エキゾウエルト”
(テルミット溶接)

応用分野

- 接地電線
- 大電流母線
- レールボンド
(JR東日本採用中)

集集電工業股份有限公司

董事長 簡 燦 雲

(昭和20年 理工学部電気卒)

台湾 台北市大安區師大路93巷18號1F

TEL : 886-2-2364-2200

FAX : 886-2-2364-2929

統一編號 : 09411969

るが、それ以後は高校生たちの言っていることの意味がわからなくなる、そこでノートと鉛筆を取り出して書いてもらう。書いてもらえば、簡単なことなのでほぼわかる。

書いてもらった文の発音してもらって聴き、再度私が言い、直してもらおう。

というやり方で、約一年毎日曜日を過ごしていった。

最初住んだところは孫文記念館の近くであった。ここにも日曜日によく行った。

故宮博物館以外は台湾の名所は無料であり、孫文記念館も入場無料である。

ここには写真も多いが、孫文の書いた資料もたくさんある。

そこに働く説明員兼、見張りの女性は国家公務員である。外省人の子供しか採用されていないと聞いたことがある。従ってきれいな北京語を話しているはずである。またすることもあまりなく、ほとんどは雑誌等を読んでいる。

そこで彼女に、私は日本人です、目の前の孫文先生の文章を読むので発音を直してくださいと、頼み練習するのである。

編集者より

北村さんは台湾に第一回一九九一年〜一九九六年、第二回一九九七年〜二〇〇六年、合計十四年駐在されました。



台北稲門会便り

日台の心の交流

台北稲門会会長 高橋 徹
(昭和四十八年卒)

台北稲門会の高橋です。台湾は二度目で一回目は一九八二年から一九八八年まで六年半商社の駐在員として勤務、今回は二〇〇三年の十二月からちょうど三年が経ったところ。二〇〇六年一月に前任の北村会長の任期到来したことにより会長職を引き継ぎました。

一九八二年五月五日、覚えやすい日を選び台湾に着任しました。

当時は、まだ戒厳令下であり公衆面前で政治の話しを声高にするのは慎むことと先輩から釘をさされ、また、市内はタクシーで移動しましたが、そのタクシーたるや、所謂小豆色のほとんどがぼろぼろのタクシーで何台かは車の床に穴が開いており、地面が見えるものもありました。更に日本食材はほとんど販売されておらず、引越し荷物として醤油・マヨネーズ等の調味料を大量に運んできた記憶があります。日本から距離的には近いのですが、えらい遠くへ来てしまった思いがありました。加えて初めての海外赴任で毎日が相当な緊張感を持って生活をスタートさせことを記憶しております。

着任当初、支店長がたまたま早稲田の先輩でもあり、台北稲門会を作るよう指示を受け、事務局として台北稲門会の設立に奔走

しましたことも懐かしく思い出されます。

その後中国駐在の経験を経て、勤めていた商社を早期定年退職した後、ある日本の企業から台湾の会社の経営を助けて欲しいとの要請を受け、台湾勤務であるならばと二つ返事で再び来台しました。

十五年ぶりに台湾に赴任してから、台北の街は大きく変わりましたが、変わらないものは、人の心です。今回も台湾の方は暖かく迎えてくれ、昔の仲間も以前どおり親しい付き合いをしてくれます。

来台すると直ぐに台北稲門会に入会し、台北校友会の皆様、日台稲門会の皆様と交友を重ねるに従って、台湾の方は世界中で一番日本と日本人を理解してくれているのではないかと。台湾の早稲田出身の方がその中でも更に一番、日本と早稲田を愛しているのではないかと。台湾の早稲田出身の方がその中で、なぜそうなのか、考えていますが、未だに結論に至ってはいません。確かに政治的にも中国に呑み込まれないようにするには、米国ともう一つの隣国である日本に近づく必要はあるかもしれません。しかし他にもっと基本的なところで台湾人の心が日本人に近い様な気がします。それは、二年前に沖繩稲門会の方が始めて台湾に見えた時食べ物も、言葉も、習慣も大変沖繩に似ているとの話がありました。

台湾の歴史の中では、一六八三年に清朝が台湾を統合した時に中国から多くの福建人が渡って来たこと、所謂本省人の基となったとされていますが、実は従来から台湾に住み着いた人はもともと多く、その人たちと沖繩を中心とする日本の南の方の島々との表面に現れない交流は相当あったので

リンカンゼミナール

リンカーン・イングリッシュアカデミー



代表取締役 國方 隆 (昭和38年法学部卒)

TEL 046-274-5622 FAX 046-276-4527

リンカングループ
RINKAN GROUP



ないかと推測しています。また、歴史的には、一六〇八年には有馬晴信が台湾に軍隊を派遣し、一六一六年には長崎代官村山等安が同じく台湾に軍隊派遣とありますが、軍隊を派遣することは、未知の外国にいきなり軍隊を派遣するなど考えられないことで、交流があり侵略する魅力があったから軍隊が派遣されたと思われ、四〇〇年以上昔から日本との交流はあったのではないかと推測します。

こうした、日本との古くからの交流をベースに理解しやすい心が、お互いに醸成されていったのではないかと思っております。我々、台北稲門会会員は台湾大好き人間の集まりであり、早稲田で学んだ精神を遺憾なく発揮し台湾の方に日本を少しでも理解していただき、日本の方に台湾を少しでも好きになっていただくよう、微力ながら尽力していくつもりでおります。

(二〇〇六年十二月二十六日)

日台稲門会活動報告

講演会 & 新年会報告

二月十六日、旧暦では年末だが、講演会 & 新年会を大隈記念タワーで開催した。

講演会は十六階の「校友サロン」を貸し切り、校友で東京中日新聞本社外信部編集委員(前台北支局長)の佐々木理臣氏をお迎えし、「日中台間の課題」についてご講演を頂いた。

新聞記者の視点から、WHO事務局長選挙における日中台三国の戦略を例示に、裏話、オフレコ情報も交えながら分かりやすく、講演頂いた。中国政府の強かで、何でもアリの戦略、日本政府の生真面目で甘い戦略、それを比較し冷静に評価する台湾人の考え方が良く理解出来た。

新年会は十五階の「レストラン 西北の風」に場所を移し開催した。白鳥会長、早



稲田大学募金課長・桜井直子氏のご挨拶に引き続き、西川潤先生の音頭で乾杯し開宴した。

早稲田大学キャンパスの夜景を臨みながら

ら、大いに飲み、食べ、語り合いの楽しい新年会であった。参加者は二十九名。

(事務局 小野間記)



※大隈記念タワー(二十六号館)について

【校友サロン(十六階)】「早稲田カードをお持ちの方」または「校友会費をお納め頂いている方」とそのご同伴者がご利用できます。開室時間は月曜日から土曜日の十三時〜十九時(日曜・祝日除く)。

【レストラン 西北の風(十五階)】

原則として教職員・校友の方の利用が可能。開室時間は授業期間中の月曜日から土曜日の十二時から二十二時(日曜・祝日除く)。

日台稲門会ニュース

西川 潤先生

退職お祝いパーティー

西川潤先生退職お祝いパーティーが、平成十九年二月二十四日(土)午後六時より、リーガロイヤルホテル東京ロイヤルルームにて開催された。

白井克彦総長、谷口誠・岩手県立大学学長、許世楷・代表処代表、竹井豊・西川会会長の祝辞に続き西川先生よりお礼の言葉がのべられ、国際教養学部長のポール・スノードン氏の発声により乾杯、開宴となった。海外からの出席者、お弟子さん、大学関係、友人等三百名近くの方が出席され、西川先生お人柄、人脈の多さを現していた。会場にはピアノ演奏や合唱がなされ、とても盛会でした。当会からは白鳥会長、丸山幹事、大嶋幹事、江幹事、小野間幹事の五名が出席した。(小野間記)



本の紹介

大山 高明著

「針路を海にとれ」

—海洋国家日本のかたち

(産経新聞出版)

人生は六〇歳からと常々語っていた著者が、還暦を迎えて自己の信念を吐露した骨太の啓蒙書。海運業、造船業、港湾業、漁業、海防、海洋資源開発、海の環境破壊など海に関する問題を幅広く網羅し、新聞報道などの断片的な知識しか持たない我々には海の教科書と言える。其々の問題について大胆な提言をおこなっているがこれらの提言は氏が海事新聞社の社長として直接取材した各業界の代表者、識者の声も多く反映させていて、海事新聞社の社長の面目躍如たるものがある。

それとは別に著者が訴えたかったのは「前書き」にあるように、この国のあり方であり「四面環海の海洋国家」というものを国民が再認識して、その意識とエネルギーを外に向けて発信することから始めなければならぬであろう」という事にある。安部総理の「美しい日本」の骨格の一つとして組み入れるべき内容のものである。本書を読んでいると思ったのは台湾も四面環海のれっきとした海洋国家。台湾在勤中の李登輝総統の国際社会への大胆な発言に戸惑いを感じたことがあったが、逆に大山流「海洋国家」的認識が確固たる発言の基盤となっていたのかと今にして思われる。多くの会員の皆様が抱く「台湾は何故懐

かしいのか、良い意味での同じ島国なのである。台湾の皆様にも是非お薦めしたい一冊である。本書が日台稲門会会員の出版であることがまた嬉しい。出版に至るまでの経緯は「あとがき」に記されているが、著者の行動力の凄さを物語っている。シニア向けの叱咤激励の一冊でもある。(白鳥記)

白井 克彦著

「早稲田はいかに人を育てるか」

(PHP新書)

一月末静岡駅でぶらりと入った書店でこの本を発見、早速購入し一気に読破した。私が早稲田に入学した年は昭和三十五年、安保反対、岸内閣打倒を叫んで全学連が連日国会にデモを行った時である。連日クラス討論で授業は休講、本格的に授業が行われたのは夏になってからと記憶している。しかし期待は見事に裏切られた。私は商学部であったが、卒業した商業高校と比較しても授業レベルは高くなく、授業方法は高校の延長であり、内容も面白くなかった。これが大学かと思いつても何とか四年で卒業したが、卒業後も大卒と言う誇りは全く感じなかった。社会に出てから慶応ビジネススクール三カ月コースに行く機会を得た。学生に戻って毎日日吉に通った。授業は連日二ケースのケーススタディ、授業が終わると復習と予習のため遅くまで図書館で勉強し、家で徹夜をした事も何回かあった。毎日大変であったが三カ月終了後の充実感と教授や同期生への思いは強く、これが真

の大学教育ではないかと感じた。今この本を読んで、早稲田も改革が進み大きく変化しているとのこと、寝る間も惜しんで勉強する早大生、エキサイティングな授業などの記事を読むと隔世の感がする。早稲田の本格的な改革は、一九九四年にスタートし奥島前総長から白井現総長を経て未だ十年有余だが、テーマカレッジ、チュートリアル・イングリッシュに代表される「仕組み」や「しかけ」などによりマスプロ教育からの脱却を目指す成果が少しずつ現れているようだ。これからの十年後が楽しみであり、私も「早稲田エクステンションセンター」で学んでみたいと思っている。(小野間記)

お知らせ

本会元会員の近藤剛さんが

バーレーン大使に

政府はバーレーン大使に本会元会員の近藤剛さんを任じる人事を決定しました。

「近藤 剛氏(こんどう・たけし) 昭三十八年政治経済学部卒業。伊藤忠常務、経団連特別顧問を経て二〇〇二年の参院選比例代表に自民党から経済界代表候補として出馬し初当選。その後〇三年十一月に日本道路公団総裁に就任。同公団が民営化した〇五年十月に中日本高速道路の会長に転じたが、談合事件などの責任を取り、昨年六月に相談役に退いていた。東京都出身、六十五歳。」

コラム

不思議な話

小野間恒夫(昭和三十九年商卒)

皆さん運命とか宿命を信じますか。こじつければ、以下の話は運命論や宿命論に使う事が出来ますのでご紹介しします。これは私の発見ではありませんが、十んくらい前ある本で発見し、私なりに運命とか宿命の話によく使っていました。

皇太子妃の旧姓は小和田雅子さまで、弟の秋篠宮妃の旧姓は川島紀子さまで、これをカタカナ(または平仮名)で次のように二行に併記します。

オ ワ ダ マ サ コ
カ ワ シ マ キ コ

次に右記のように一字置きに印をつけます。印をつけた字を右上から順に読んでゆきます。更に印の無い字を左上から読んでゆきます。お分かりのようにオワダマサコとカワシマキコとなります。この例の条件を整理し、計算すれば幾つもの例を作り出す事が出来ると思いますが、

二つの家族の夫人同士という確率は相当低いのではないかと思います。これが皇室となると、これには運命(宿命?)が作用していると思われる神秘性を感じます。

運命とは人の行動を支配する大きな力、宿命とは生まれる前から定まっています。うにもならない力などと言われています。小和田家と川島家、お二人誕生時の命名、ご結婚、これらを考えるとお二人と殿下は赤い糸に結ばれていたのではないかと考えてしまいます。

分かってしまえば簡単な話ですが、色々な例示や話題に使えますのでご紹介しました。機会が有りましたら何処かで使ってみて下さい。尊敬されること間違いありません。

台湾ニュース

草山行館が全焼(4月7日)

草山とは陽明山の日本時代の名称で、草山行館は当時の台湾精糖の貴賓館(迎賓館)だったそうです。まだ摂政宮であらせられた昭和天皇が1923(大正12)年、長期にわたり台湾を行啓された際、竣工されたばかりのこの貴賓館で暫

し休息され昼食を摂られた(4月25日)、という記録があります。

終戦後は中国国民党の接収に遭い、その後台湾に逃れた蒋介石元総統の官邸となり、官邸が士林に移った後は夏の個人別荘として使用されました。

2003年4月からは一般公開され、各種の文化的催し物が開かれていたとのこと。確か、陽明公園を過ぎた先の左側にひっそり佇んでいたと記憶します。日本時代の古跡という意味で誠に残念であります。

中国国民党新主席に呉伯雄氏

台北市長在任時の横領容疑で起訴され、辞任した馬英九前国民党主席に代わり、代理主席を務めていた呉伯雄元内政部長が、この度党主席に就任しました。呉伯雄主席は許水徳氏(元台北駐日経済文化代表処代表、元亜東関係協会理事長)を挟んで2回内政部長を務めました。本当に政治生命の長い才です。なんといつても行政院長が李煥からカク柏村、立法院長が梁肅戎、司法院長が林洋港時代の内政部長です。同じ頃外交部長は銭復、国防部長は陳履安、經濟部長は蕭萬長が務めていました。2008年の総統選挙には誰が出馬するのでしょうか。

母校ニュース

二〇〇七年十月の主な創立二二五周年記念企画

- 十月二十日(土) 十一月二日(金) 創立二二五周年祝賀期間 例年のオール早稲田文化週間を拡大し、併せて創立二二五周年記念行事を集中的に実施
- 十月二十日(土) ホームカミングデー 記念会堂 卒業後二十五・三十五・四十五・五十年の校友を招待
- 十月二十日・二十一日(土・日) 稲門祭 西早稲田キャンパス
- 十月二十一日(日) 創立二二五周年記念式典 記念会堂
- 十月二十三日(火) 研究推進部シンポジウム 井深大記念ホール
- 十月二十八日(日) 歌舞伎「勸進帳」大隈講堂
- 十月三十日(火) ひとり芝居「白野弁十郎」 大隈講堂
- 十月一日(月) 十一月十日(土) 「會津八一と早稲田大学」 會津八一記念博物館
- 十月一日(月) 十一月十一日(日) 「演劇人 坪内逍遙展」 演劇博物館
- 十月二十日(土) 十一月十七日(土) 「早稲田の歌 ワセダのメロディー」 早稲田大学校歌制定百年記念「會津八一記念博物館
- 十月二十日(土) 十一月三十日(金) 角田柳作展「日米の架け橋となった先生」 大隈記念タワー十階百二十五記念室

会費振り込み口座変更のお知らせ

今年度から、井村晃也副会長に替わって川村淳一幹事が会計担当に就任、それに伴い銀行振り込み口座も変わりました。会費お振り込みの際は、ご注意ください。

銀行名：三井住友銀行(銀行コード0009)

口座店：上大岡支店(電話045・841・3131) 店番：566

口座番号：普通預金 6929095

口座名義：日台稲門会(ニチタイトウモンカイ) 川村淳一(カワムラ ジュンイチ)

なお郵便振替は変わりません

※郵便振替口座記号番号：000138

・8・69805

加入者名：日台稲門会



エー・リンク株式会社
〒182-0002 東京都調布市仙川町1丁目6-4
フェアリービル202号

TEL 03-5315-1020 FAX 03-5315-1023
http://www.alinkcorp.co.jp
代表取締役社長 小林 保雄
(S46年社学卒)

日本と中国、台湾を結ぶエレクトロニクス・エンジニアリングのソリューション・プロバイダー

- 台湾半導体製品、ディスプレイ関連製品及びIT関連製品の日本企業への紹介
- 半導体レイアウト設計のアウトソーシング
- 日本と中華圏を結ぶコンサルティング

編集後記

昨年は日台稲門会創立十周年、今年には会報創刊十号と、節目の年が続いた。

今回も編集作業のお手伝いをさせて頂いたがいもながら感じるのは台湾に対する深い愛情と信頼感、それと感謝の気持ちだ。これは皆さんが台湾の人々との間に、親密な関係を築いてくれたというこの証だと思ふ。

編集子も台湾駐在当時、現地で家族一同、多くの方々からの親切を受けた。当初は出張らしい観光気分だったが、暮らすといつ実感を覚えてからは次第に興味、愛着が育ち、日本出張からの帰路、三重付近の高架道路から見る陽明山の灯には思わずホロリときたものだ。

その頃の日本人の台湾に対する感情には、今考えると屈折したものがあったと思ふ。先ずは蒋介石元総統の以德報怨に感謝し、植民地時代に所業を陳謝し、それから遠慮がちに本題に入るといった、ターンの台湾に関する記述は多かったように記憶している。

それが最近、李登輝前総統による日本統治時代の切實に対する罵詈雑言を耳にするようになった。それから、俄かに自信が湧き、気兼ねなく素直に台湾に対する感情を口にすることができるようになった。産強付会がもしれないが平和を愛する諸国民の公正と信義を具現化している。Sはつくづく台湾だと思ふ。これからは、この世界でも稀有な国との関係を、さらに強固にしてゆきたいものだ。

前号で、創刊第十号特別号はこれまで歴史の経緯を踏まえ記念誌として発行する予定です、と予告しましたが、その体裁を整えることができなかったことを、最後に詫言いたします。我が母校も百二十五周年を迎えます。盛大に祝しましょう。


昭和五十年商卒 齋藤 晃

萬國專利商標事務所

当所は1972年に創立以来、企業団体、大学の学生団体に知的財産権についての教育と指導を続けると共に、特許・商標出願依頼人に対して、電子、電気、半導体、ビジネスモデル、ソフトウェア、化学、医薬品、バイオ、材料、機械、日用品等の各分野における発明・考案・意匠・商標の権利化を始め、知的財産関係の研究、相談など質の高いサービスを提供しております。皆様方の暖かいご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

所長・弁理士 陳 昭誠
台湾台北市10044 博愛路35号9階
TEL: 886-2-2381-7099 (代表)
FAX: 886-2-2331-7068・886-2-2389-1188
E-MAIL: service@iprlouis.com
WEBSITE: www.iprlouis.com

- メンバー：日本知的財産協会 (Japan Intellectual Property Association, JIPA)
- アジア弁理士協会 (Asian Patent Attorney Association, APAA)
- 国際商標協会 (International Trademark Association, INTA)
- 国際工業所有権保護協会 (International Association for the Protection of Industrial Property, AIPPI)
- 世界知的財産代理人連盟 (International Federation of Intellectual Property Attorneys, FICPI)

| | | | | | |
|---|--|--|--|--|---|
| <p>株式会社大和総研 川村淳一 〒135-0041 東京都千代田区冬木一四 五 電話 03(5560)4741-1</p> | <p>加藤 博 東京都小金井市貴井南町五一四 一〇 電話 042(568)7073</p> | <p>小野間恒夫 神奈川県茅ヶ崎市南湖5 15 5 電話 FAX 0467(33)2611</p> | <p>早稲田大学校友会 日台稲門会 行政書士 稲門会 大嶋 武  〒362-0021 埼玉県新座市ゆたか三 一一一 TEL 048(477)7774 FAX 048(477)7774 携帯 090(5003)9904</p> | <p>株式会社武蔵野種苗園 相談役 上野晃司</p> | <p>早稲田大学校友会 日台稲門会 顧問 井村晃也 東京都小金井市貴井南町五一二 一一</p> |
| <p>白鳥和夫 神奈川県茅ヶ崎市浜須賀一〇 五一 電話 0467(32)99884</p> | <p>日台稲門会 稲門乗馬会 齋藤 晃 東京都新宿区新宿六一五 十五 akira@idnmail.com</p> | <p>近藤良三郎 神奈川県横浜市港北区大倉町二四三 五二〇 電話 FAX 045(544)7550</p> | <p>早稲田大学商議員 横浜校友会 顧問 関東日華親善協会理事 早稲田大学 台湾研究所 〒102-0054 東京都新宿区早稲田鶴巻町五三一 早稲田大学研究開発センター 二一〇 一号館 電話 〇三五七二六一九 内線 三〇一〇 FAX 〇三三(〇八)八五二〇 xxchang@asea.jp</p> | <p>社団法人全国種太通明理事 財産管理委員長 T-ライント 木村 滋 東京都世田谷区松原二 三九 一六 土河松原 〆〆〆 2004 電話 FAX 03(331)7604</p> | <p>日台稲門会 幹事 神田正治 E-mail kanda@388@ata.com.jp</p> |
| <p>早稲田大学校友会 日台稲門会 渡邊光治 千葉県千葉市市橋本四 一七七 電話 047(396)2196</p> | <p>華隆機軸工 廠有限公司 董事長 廖朝欽 廠址 台中市豐原市園環北路一段三五九號 電話 04(262)3000</p> | <p>日台稲門会 名誉会長 村野賢哉 東京都大田区西蒲田三 十一六 電話 〇三三(七五)六二一五七</p> | <p>真鍋藤正 税理士事務所 高座日台交流の会 副会長 日台稲門会 幹事員役 真鍋藤正 神奈川県大和市中央五 十三五 電話 〇四六(一六四)三〇五〇</p> | <p>東京都中野区若宮二 二二七 電話 〇三三(三三三)八七三六六 田村雅司 (昭千八政経卒)</p> | <p>日台稲門会 会員(テンプル大学日本校講師) 法政大学政治科学博士 みづえフナヴァシリナク 世田谷区砧八 三四 一五二〇一 電話 090 3509 7360</p> |



鈴木歯科クリニック
Suzuki Dental Clinic
東京都豊島区池袋4-25-1
東横ビル1F 〒171-0014
Kina Bldg. 1F
4-25-1, Babukuro, Toshima-city
Tokyo 171-0014 Japan
Phone: 03-5950-8241
Fax: 03-5950-8242

歯科医師/歯学博士
鈴木章敬
Akiyoshi Suzuki, D.D.S., Ph.D.



池袋駅 池袋駅西口
池袋駅東口
池袋駅南口
池袋駅北口
池袋駅西口
池袋駅東口
池袋駅南口
池袋駅北口